

## 5 成果と課題

これまでの分析や検証を踏まえ、本道の成果と課題を次のようにまとめました。

### (1) 成果

#### 【授業改善・教員の指導力向上】

- 全国の平均正答率との差が小・中学校ともに改善の傾向にあります。
- 正答数の少ない児童生徒の改善が図られています。
- 授業で目標を示したり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れる学校が増えています。

#### 【学校の組織的な取組】

- 全国学力・学習状況調査の結果を学校全体で共有し、教育活動の改善に生かす学校が増えています。

#### 【生活習慣や学習習慣の確立・子どもの学びの支援】

- 国語、算数・数学の指導として家庭学習の課題（宿題）を与える学校の割合が調査開始以降、増加傾向にあります。
- 家で学校の宿題をする児童生徒の割合が調査開始以降、増加傾向にあります。

#### 【地域と一体となった取組】

- 学力向上のための取組について保護者や地域の人たちに対して働きかけを行ったり、地域の人材を外部講師として招聘した授業を行ったりする学校の割合が、全国よりも高い状況にあります。

### (2) 課題

#### 【授業改善・教員の指導力向上】

- 漢字や四則計算など基礎的・基本的な内容について、当該学年の指導に加えて確実な定着を図るための取組が必要です。
- 「主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善の取組状況」など、学校が指導を行ったと考えていても、そのように受け取っていない児童生徒が一定割合存在する状況が見られる項目があります。
- 記述式の問題の正答率が低く、無解答率が高い傾向にあります。

#### 【学校の組織的な取組】

- 教職員の同僚性を高め、組織的な取組がより徹底するよう管理職がリーダーシップを一層発揮する必要があります。
- 近隣等の小（中）学校と教育目標を共有するなどの小中連携の取組が全国と比べて十分進んでいない状況にあります。

#### 【生活習慣や学習習慣の確立・子どもの学びの支援】

- テレビ等の視聴時間や携帯電話の使用時間が長く、家庭学習の時間が短い状況が調査開始以降、継続しています。
- 家庭での学習方法を具体例を示しながら「よく教えた」学校の割合が、継続的に成果を上げている他県よりも少ない状況にあります。

#### 【地域と一体となった取組】

- 地域の教育力を活用して子どもの学びを支える体制づくりを一層進める必要があります。